

第3学年 音楽科学習指導案

平成25年11月22日(金) 5校時
場 所 益田市立東陽中学校音楽室
授業者 教諭 大庭 亜希子

1 題材名 コード進行の特徴を生かして旋律をつくろう
～音楽を形づくっている要素の働きを感じ取りながら～

2 題材の目標

コード進行の特徴に関心をもち、リズム、旋律、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取る活動を通して、イメージや思いを共有しながら旋律をつくる能力を育てる。

3 題材設定の理由

(1) 題材について

音楽科第2・3学年の創作分野で求められる「創意工夫して表現する能力」とは、言葉や音階などの特徴を生かし表現を工夫して旋律をつくる能力、音素材の特徴を生かし反復、変化、対照などの構成や全体のまとまりを工夫しながら音楽をつくる能力のことである。この能力は、音楽表現の豊かさや美しさを感じ取ることと、自分なりのイメージをもち、それを表現する技能を伸ばすこととを一体的に高めていくことが大切になる。

本題材では、A表現(3)ア、イを指導事項として位置付け、その指導を実現していく指導内容を〔共通事項〕ア「リズム」「旋律」「構成」と位置付けて題材を構成した。

創作の授業で重視すべきことは、表現のもとになるイメージや心情をできるだけ明確にさせること、即興的に鳴らした音や、偶然にできた音楽についても音楽的な要素の働きを知覚・感受し、自分にとっての意味を意識させることである。音楽の学力は、生徒自らが音や音楽に直接働きかけ、音楽を形づくっている要素や要素同士のかかわりによって生み出される特質、雰囲気から得た情報を自分の知識と経験に組み換え、思考・判断を再構成する学習によって身に付くものであると考えられる。そこで本題材では、これまでの中学校音楽科における歌唱、器楽、創作、鑑賞の学習で身に付けたことを総合的に働かせながら、イメージをもとに旋律づくりに取り組ませる。

コード進行を手掛かりにしながら、音楽を形づくっている要素または要素同士のかかわりによって生み出される特質や雰囲気を感じ取り、思いや意図をもって、音を音楽へと構成する学習過程を重視したい。

(2) 生徒について

本学級は男子16人、女子16人の32名で構成されている。音楽活動に対して関心が高く、表現・鑑賞領域ともに意欲的に取り組むことができている。しかしながら音楽経験の差はあり、歌唱やリコーダーを苦手としている生徒もいる。創作については、これまでリズムリレーや即興的な創作活動を経験してきた。本題材では、まず「主人は冷たい土の中に」から、フレーズの続く感じ(半終止)と終わる感じ(完全終止)に気づき、どのような音を使うと続く感じになるか知覚する。それをもとに、コード進行を手掛かりとして8小節の旋律をつくる活動をする。コードについては、GReeeeNの「キセキ」を用いながら様々なコードに触れ、音の組み合わせ方などを理解し、キーボードで簡単なコードを弾くことができるようになっている。「キセキ」では旋律にコードをつける学習をしたが、今回はコードに旋律をつけるという逆の活動になる。コードの特徴や雰囲気を感じ取り、イメージや思いをもって旋律をつくらせたい。リズムについては、これまでリズムリレーやリズムパーカッションをするなかで、様々なリズムを習得することができている。リズムの特質や雰囲気を感じ取り、また、その他の音楽的な要素とのかかわりを感じ取りながら、工夫して旋律をつくることに指導したい。

本題材では、自分たちで旋律づくりを通して、今後も曲の構成など音楽を形づくっている要素を意識しながら、様々な音楽を楽しもうとする態度につなげたい。

(3) 指導にあたって

本題材ではこれまでの学習活動を生かした創作活動をするということで、音楽の総合的な力が必要となる。学習指導要領解説では、創作活動の意義について「即興的に音を出しながら音のつながり方を試すなど、音を音楽へと構成していく体験を重視すること」と示してある。今回は生

徒が自由に音を出し、特に音の長さ、高さなどを意識しながら「音のつながり方を試す」ことを通して旋律づくりができるようにキーボードを用いる。

本題材では1時間目はグループ活動、2時間目はペア活動、3・4時間目は個人での活動と、段階を経て旋律づくりに取り組ませる。キーボードは、他の生徒の作品のよさを参考にしたり、質問し合ったりすることができるように、4人に対して1台使用させる。キーボードの鍵盤には、旋律を何度も弾いて確かめることが容易にできるよう、階名のシールを貼っておく。お互いに学び合い、助け合いながら、イメージをもって旋律をつくらせたい。

第1次では、コード進行の構成音のみを使って旋律をつくる活動を通して、同じコード進行の曲でもリズムや旋律が違っていると印象が異なることに気づかせたい。つくった旋律は五線譜に記録させる。記譜の指導では、音符を記入する位置、“はね”や“ぼう”の向きなどに気をつけながら記録するように留意させたい。

第2次では、既習曲から順次進行や跳躍進行の特徴などを知覚・感受し、それらを生かしてコード進行を手掛かりにしながら旋律をつくらせる。音楽で表現したいイメージをもち、イメージを音にしていくことができるように支援していきたい。

第3次では、これまでつくった旋律の見直しをし、本題材のまとめとして出来上がった作品を学級内で発表し合い、旋律をつくることができたという達成感をもたせたい。また、他の生徒の作品のよさや美しさを、自らの旋律づくりの体験とかかわらせながら、感性を豊かに働かせて、深く味わって聴くように指導したい。

4 学習指導要領とのかかわり

(1) 本題材で指導する事項

A表現：創作	
○	ア 言葉や音階などの特徴を感じ取り、表現を工夫して簡単な旋律をつくること。
○	イ 表現したいイメージをもち、音素材の特徴を感じ取り、反復、変化、対照などの構成を工夫しながら音楽をつくること。

(2) 取り扱う主な〔共通事項〕

ア	音色	/
	リズム	拍や拍子、リズム・パターン
	速度	/
	旋律	旋律線のもつ方向性、フレーズ
	テクスチャ	/
	強弱	/
	形式	/
	構成	反復、変化
イ	用語や記号	/

5 参考教材

「主人は冷たい土の中に」(S.C. フォスター 作曲 / 浦田健次郎 編曲)

「エーデルワイス」(R. ロジャーズ 作曲 / 飯沼信義 編曲)

6 評価規準

(1) 領域・分野と評価の観点との関連

評価の観点 領域・分野	ア) 音楽への 関心・意欲・態度	イ) 音楽表現の創意工夫	ウ) 音楽表現の技能	エ) 鑑賞の能力
A. 歌唱				
A. 器楽				
A. 創作	○	○	○	
B. 鑑賞				

(2) 題材の評価規準

ア) 音楽への関心・意欲・態度	イ) 音楽表現の創意工夫	ウ) 音楽表現の技能
<p>①コード進行の特徴に関心をもち、音楽表現を工夫して旋律をつくる学習に主体的に取り組んでいる。</p>	<p>①リズム、旋律、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じている。 ②順次進行や跳躍進行の特徴を知覚・感受しながら、コード進行の特徴を生かした音楽表現を工夫し、どのように旋律をつくるかについて思いや意図をもっている。 ③順次進行や跳躍進行の特徴を知覚・感受しながら、音楽で表現したいイメージをもち、コード進行の特徴を生かし、構成や全体のまとまりを工夫し、どのように旋律をつくるかについて思いや意図をもっている。</p>	<p>①コード進行の特徴を生かした音楽表現をするために必要な技能（音の組み合わせ方、記譜の仕方）を身につけて旋律をつくっている。</p>

7 指導と評価計画（全4時間）

次	時	ねらい	○学習内容 ・学習活動	〔共通事項〕	評価	評価方法
第一次	1	<p>同じコード進行の曲でもリズムや旋律が違っていると気づくことができるようにする。</p>	<p>○旋律づくりに用いるリズムの確認する。 ・四分音符、八分音符、四分休符、八分休符からなる8種類のリズムをたたき、リズムの特徴に気づく。 ○「主人は冷たい土の中に」のコードから続く感じと終わる感じの違いを知覚・感受する。 ・気づいたことをワークシートに記入し、学級で発表し、共有する。 ○C→F→G→Cのコード進行に合わせて、キーボードを弾きながら、グループで和音の構成音のみを使った4小節の旋律をつくる。 ・和音の構成音を使い、どのような旋律をつくるか思いや意図をもって、リズムや構成を工夫しながら、終わる感じの曲をつくる。 ○記譜の仕方の確認 ・演奏しやすいように、音符を記入する位置、“はね”や“ぼう”の向きなどに気をつけながら記譜する。 ○各グループの作品を聴き、同じコード進行の曲でもリズムや旋律が違っていると印象が異なることを理解する。 ○学習の振り返りをする。</p>	<p>リズム ↓ 旋律 ↓ ↓</p>	<p>ア① ↓ イ①</p>	<p>楽譜への書き込み ↓ ワークシートの記述</p>

第二次	2 (本時)	<p>順次進行や跳躍進行の特徴を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、コード進行を手掛かりにして音楽表現を工夫することができるようにする。</p>	<p>○前時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時の作品を聴き、同じコード進行の曲でもリズムや旋律が違っていると印象が異なるということ想起する。 <p>○「エーデルワイス」から、順次進行と跳躍進行の特徴や雰囲気を感じ取り、ワークシートに記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 感じ取ったことを学級で共有する。 <p>○ペアになり、「授業中」「テスト中」「休憩時間」の中からテーマを1つ選び、イメージを膨らませながらC→F→C→Gのコード進行に合わせて、続く感じの4小節の旋律をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> キーボードで1人はコードを、もう1人は旋律を弾き、何度も試しながら旋律をつくる。 順次進行や跳躍進行の特徴を生かしながら、どのような旋律をつくりたいかの思いや意図をもつ。 <p>○ペアごとにつくった旋律を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> どのような思いや意図をもってつくったかを伝えてから、キーボードで発表する。 <p>○学習の振り返りをする。</p>	<p>リズム 旋律</p> <p>↓ ↓</p>	イ②	<p>発言の内容 楽譜への書き込み ワークシートの記述</p>
	3	<p>音楽で表現したいイメージをもち、コード進行の特徴を生かし、構成や全体のまとまりを工夫しながら旋律をつくることができるようにする。</p>	<p>○C→F→G→Cのコード進行に合わせて、前時につくった旋律に続く、終わる感じの旋律をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> イメージに合う旋律になるように、構成や全体のまとまりについて工夫し、どのように旋律をつくりたいかの思いや意図をもつ。 <p>○一人ずつ8小節の旋律を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 8人のグループをつくり、どのような思いや意図をもって旋律をつくったかを伝えてから、キーボードで発表する。 <p>○学習の振り返りをする。</p>	<p>リズム 旋律 構成 (反復・変化)</p> <p>↓ ↓ ↓</p>	イ③	<p>発言の内容 楽譜への書き込み ワークシートの記述</p>

第三次	4	コード進行の特徴を生かした音楽表現をするために必要な技能（音の組み合わせ方、記譜の仕方）を身につけて旋律をつくることができるようにする。	<p>○コード進行の特徴を生かした音楽表現をするために必要な技能（音の組み合わせ方、記譜の仕方）を身につけて旋律をつくる。</p> <p>○前時までに作った8小節の旋律について、さらに見直して仕上げ、発表し合い、よさなどを共有する。</p> <p>・8人グループをつくり、どのような思いや意図をもって旋律をつくったかを伝えてから、一人ずつキーボードで発表する。</p> <p>○学習の振り返りをする。</p>	リズム	ウ①	発言の内容 楽譜への書き込み ワークシートの記述 演奏の聴取
				<p>旋律</p> <p>構成 (反復・変化)</p>		

8 本時の計画（本時2/4）

(1) ねらい

順次進行や跳躍進行の特徴を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、コード進行を手掛かりにして音楽表現を工夫することができるようにする。【音楽表現の創意工夫】

(2) 展開

	・学習活動 ◇予想される生徒の反応	・教師の支援	評価規準と方法
導入	<p>・前時の振り返りをする。</p> <p>前時の作品を2作品聴き、同じコード進行の曲でもリズムや旋律が違っていると印象が異なるということを再確認する。</p>	<p>・前時に学習したことを想起させる。</p>	

展
開

- ・本時のめあてと活動の流れを知る。順次進行や跳躍進行の特徴を生かしながら、続く感じの4小節の旋律をつくろう
- ・「エーデルワイス」を聴き、順次進行や跳躍進行について、特徴や雰囲気など感じ取ったことをワークシートに記入する。
- ・ペアになり、「授業中」「テスト中」「休憩時間」の中からテーマを1つ選び、イメージを膨らませながらC→F→C→Gのコード進行に合わせて、続く感じの4小節の旋律をつくる。
- ・下書き用紙を用いて旋律をつくり、完成したところで各自ワークシートに記入する。
 - ◇「ここでは元気のいい感じにしたかったので、跳躍進行にしてみよう。」
 - ◇「続く感じにするにはリズムや旋律をどうすればいいだろう。」
- ・8人のグループをつくり、ペアごとにつくった旋律をキーボードで発表する。互いに聴き合い、作品のよさや改善点を見つけ、伝え合う。
- ・他のペアのよさやアドバイスを参考にしながら練り直す。
- ・旋律づくりをするなかで、気づいたことや感じたことをワークシートに記入する。
- ・次時は個人で本時につくった旋律に続く、終わる感じの4小節をつくり、曲を完成させることを確認する。

ま
と
め

- ・めあてを黒板に掲示する。
- ・「エーデルワイス」の拡大楽譜をホワイトボードに貼り、視覚的に順次進行と跳躍進行の違いがわかるようにする。
- ・感じ取ったことを発表させ、学級で共有し、理解を深めさせる。
- ・リズムサンプルを使ってもよいことを伝える。
- ・例を示す。
『『テストの点がよかったからうれしい』という感じにしたいのでリズムは付点音符を使って、跳躍進行にしました。』
- ・旋律づくりで使ってもよい音域をホワイトボードに示す。
- ・各グループを廻りながら活動の様子を確かめて、必要に応じて記譜について助言する。
- ・1人はコード、もう1人は旋律を弾き、2人とも活動にかかわれるようにする。
- ・演奏する前にどのような思いや意図をもってつくったかを発表させる。
- ・感想を共有する。
- ・本時までの活動を評価し、次への意欲につなげる。

イ②
発言の内容
楽譜への書き込み
ワークシートの記述

③本時の評価【音楽表現の創意工夫】イ②

順次進行や跳躍進行の旋律の特徴を知覚・感受しながら、コード進行の特徴を生かした音楽表現を工夫し、どのように旋律をつくるかについて思いや意図をもっている。

生徒の姿 評価の観点	十分満足できると判断される生徒の姿の具体例	おおむね満足できると判断される生徒の姿の具体例	努力を要すると判断される生徒の姿の具体例と支援
音楽表現の 創意工夫	<p>＜順次進行の特徴を生かしている生徒＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業中の気持ちの変化やだんだん時間が過ぎていく様子を表すために、音の高さを少しずつ高くしていくなどの工夫をしながら旋律をつくっている。 テスト中の緊張感が高まっていく感じを表すために、音の高さをだんだん高くなるようにしたり、残り5分の見直しの時間を表すために低くしたりしている。 休憩時間の気持ちの高揚を表すために音の高さをだんだん高くなるようにしたり、終了に近づくにつれ低くしたりしている。 <p>＜跳躍進行の特徴を生かしている生徒＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業中、楽しい題材でうれしい気持ちを表すために、音の高低をつけたり、リズムを工夫したりしながら旋律をつくっている。 難しい問題が解けたときの喜びを表すために、音の高低をつけたり、リズムを工夫したりしながら旋律をつくっている。 楽しい休憩時間が終わってしまう気持ちを表すために、音の高低をつけたりリズムを工夫したりしながら旋律をつくっている。 <p>＜順次進行と跳躍進行の両方の特徴を生かしている生徒＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業中の気持ちの変化を表すために、音の高さをだんだん高くなるようにしたり、解答が解けた喜びを 	<p>＜順次進行の特徴を生かしている生徒＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業時間がだんだん過ぎていく様子を表すために、音の高さを少しずつ高くしていくなどの工夫をしながら旋律をつくっている。 テスト中の緊張感が高まっていく感じを表すために、音の高さをだんだん高くなるようにして旋律をつくっている。 休憩時間の終了とともに授業へ戻っていく様子を表すため、音の高さをだんだん低くなるようにつくっている。 <p>＜跳躍進行の特徴を生かしている生徒＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業中、楽しい題材でうれしい気持ちを表すために、音の高低をつけて旋律をつくっている。 難しい問題が解けたときの喜びを表すために、音の高低をつけて旋律をつくっている。 楽しい休憩時間が終わってしまう気持ちを表すために、音の高低をつけて旋律をつくっている。 <p>＜順次進行と跳躍進行の両方の特徴を生かしている生徒＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業中の気持ちの変化を表すために、音の高さをだんだん高くなるようにしたり、解答が解けた喜びを 	<p>努力を要すると判断される生徒の姿の具体例と支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 旋律をつくることができない。 →和音の構成音を使ってつくらせてから、少し違う音を入れさせて雰囲気を感じ取らせる。また、リズムについても幾つか示し、自分のイメージに合ったものを選択させて、つくらせる。

	<p>にしたり、解答が解けた喜びを表現するために、音の高低をつけたりするなど工夫しながら旋律をつくっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テスト中の緊張感が高まっていく感じを表すために、音の高さをだんだん高くなるようにしたり、解答が解けた喜びを表現するために、音の高低をつけたりするなど工夫しながら旋律をつくっている。 ・休憩時間の気持ちの高揚を表すために音の高さをだんだん高くなるようにしたり、体を動かしたりする喜びを表現するために、音の高低をつけたりするなど工夫しながら旋律をつくっている。 	<p>表現するために、音の高低をつけたりしながら旋律をつくっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テスト中の緊張感が高まっていく感じを表すために、音の高さをだんだん高くなるようにしたり、解答が解けた喜びを表現するために、音の高低をつけたりしながら旋律をつくっている。 ・休憩時間の気持ちの高揚を表すために音の高さをだんだん高くなるようにしたり、体を動かしたりする喜びを表現するために、音の高低をつけたりしながら旋律をつくっている。 	
--	---	---	--

9 研究協議の視点

- ・教材は、生徒の実態を考慮し、主体的に取り組む態度を育てるために適切なものであったか。
- ・予想した生徒の具体的な姿や支援は適切であったか。

コード進行の特徴を生かして旋律をつくろう その1

() 番 ()

今日のめあて

コードの構成音を使って、終わる感じの4小節の旋律をつくろう。

リズムパターン ※2拍分

1. リズムを選ぶ (同じリズムを2回選んでもよい)

2. 構成音をリズムにあてはめる。

〔注意点〕なぜそのリズムを選んだか、なぜその音を選んだかを説明できるようにしよう!!

3. 記譜の注意点に気をつけながら清書をする。 おんぶ きょうふ 音符・休符の書き順の例

ぼうの向き

- ・たまが第2間以下のときは上向きに
- ・たまが第3線上のときは原則として下向きに、第3線より上のときは下向きに

C → F → G → C のコード進行を基に、コードの構成音を使って終わる感じの4小節の旋律をつくりましょう。

〈清書用〉

創作学習ふりかえり

○をつけよう

できなかった

だいたいできた

できた

- | | | | | | |
|-----------------------------|---|---|---|---|---|
| 1. 創作学習に意欲的に取り組むことができた。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 2. 積極的に発言しながら創作することができた。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 3. 工夫しながら創作することができた。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 4. 班員と協力して創作することができた。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 5. 感想と反省 (気づいたことや感じたことを書こう) | | | | | |

〈先生から一言〉

コード進行の特徴を生かして旋律をつくろう その2

() 番 ()

今日のめあて

順次進行や跳躍進行の特徴を生かしながら、続く感じの4小節の旋律をつくろう。

進行の種類	旋律の特徴を書こう	どのような感じがするか・どんな音楽効果があるか
順次進行		
跳躍進行		

C → F → C → G のコード進行を基に、順次進行や跳躍進行の特徴を生かしながら、続く感じで終わる4小節の旋律をつくりました。

ペアで学校生活の場面を選ぼう。 授業中 ・ テスト中 ・ 休憩時間

〈清書用〉

C F C G

〈旋律の説明〉 ★どんな思いやイメージをもってつくったのか書きましょう。

創作学習ふりかえり

○をつけよう

できなかった

だいたいできた

できた

1. 創作学習に意欲的に取り組むことができた。 1 2 3 4 5
2. ペアで協力しながら創作することができた。 1 2 3 4 5
3. 順次進行と跳躍進行について理解することができた。 1 2 3 4 5
4. 順次進行と跳躍進行の特徴を生かしながら創作することができた。 1 2 3 4 5
5. 感想と反省（気づいたことや感じたことを書こう）

〈先生から一言〉

コード進行の特徴を生かして旋律をつくろう その3

() 番 ()

今日のめあて

前回つくった旋律に続く、終わる感じの4小節の旋律をつくろう。

C → F → G → C のコード進行を基に、終わる感じの4小節の旋律をつくりましょう。

◇反復や変化、全体のまとまりなどの工夫について楽譜に言葉で書き込もう。

C F C G

C F G C

〈旋律の説明〉 ★どんな思いやイメージをもってつくったのか書きましょう。

創作学習ふりかえり

○をつけよう

できなかった

だいたいできた

できた

1. 創作学習に意欲的に取り組むことができた。 1 2 3 4 5
2. 工夫をしながら創作することができた。 1 2 3 4 5
3. 友達の作品から工夫したことを感じ取ることができた。 1 2 3 4 5
4. 感想と反省（気づいたことや感じたことを書こう）

〈先生から一言〉
